

# トゥー・フォー・ザ・マネー

2006(平成18)年3月31日鑑賞(ホクテンザ2)



監督＝D・J・カルソー／出演＝アル・パチーノ／マシュー・マコノヒー／レネ・ルッソ  
(UIP 配給／2005年アメリカ映画／122分)

……アル・パチーノとマシュー・マコノヒーの共演という豪華な顔ぶれにもかかわらず、大阪での上映はホクテンザ1館だけというのは、フットボールの試合をターゲットとした「スポーツ賭博」というウラ社会を描いているため……？ 実話にもとづく映画らしいが、「金のために結ばれた2人」(トゥー・フォー・ザ・マネー)なら、やはりいつかは別れていく運命……？ もっとも、いくらの中率80%を超える彼でも、WBCでの「王ジャパン」の優勝を当てることはできなかったのでは……？

## アル・パチーノとマシュー・マコノヒーの共演だが……

この映画は、アル・パチーノとマシュー・マコノヒーという2大俳優の共演。とりわけアル・パチーノの名前は全世界に知れ渡っているはずだが、なぜかこの『トゥー・フォー・ザ・マネー』は、大阪ではホクテンザ1館だけの上映。しかも、パンフレットがつくられていないらしく、販売されていない。映画の上映システムは非常に複雑だが、なぜアル・パチーノ主演のこんな面白い映画が、こんなに冷遇(?)されているのか私にはよくわからない。スポーツ賭博という「反社会的なテーマ」を扱った映画だから、などというクレイごとの理由でないことだけはたしか……？

## さすがアメリカ！ スポーツ賭博のシステムは？

この映画でアル・パチーノは金、組織、仲間、部下、妻、子供、健康等について何とも人間味豊かな(?)キャラをもったスポーツ情報会社の経営者を演じて

いる。スポーツ賭博は非合法ながら、事実上そのスポーツ賭博のためのスポーツ情報を提供する会社を経営しているのがウォルター（アル・パチーノ）。

その本質は競馬の予想屋と同じようなものだが、予想を顧客に売り込み、賭けに勝った客から手数料を貰って稼ぐという「システム」はそれなりに合理的なもの。そして、それが組織的に大がかりに展開され、TV コマーシャルまでやっているのを観ると、さすがアメリカ！ と感心。そんなウォルターは的中率80%のブランドン（マシュー・マコノヒー）に目をつけ、スポーツアドバイザーとして彼を大々的に売り出すことによって大もうけしようと考えたため、2人の思惑は見事に一致……。

もっとも、それだけ自信を持って顧客にスポーツ賭博を勧めるのなら、「自分で買えば……」「自分で賭ければ……」と思ってしまうのは当然……。しかし、そんなこの映画は観客の疑問に対する答えを用意しているから、それも人間観察の1つの視点としてキチンと勉強してもらいたいもの……。

## 当てる確率が80%って本当……？

ブランドンは元アメリカンフットボールの選手だから、各チームの選手の力量や監督の采配能力などをよく知っているため、他の「予想屋」より有利なことはよくわかる。しかもその彼がよく当てるのは、自らトレーニングに励んでいるためと信じているようだが、そう言われると何だか怪しいもの……？

賭け事大好き人間の私（？）にとっては、いくら元フットボール選手であっても、いくら天性の鋭いカンを持っていても、アメリカンフットボールの試合における勝敗的中率80%というのは信じがたいものだ。

もっとも、3月25日に開幕したプロ野球のパ・リーグでは、楽天イーグルスの戦力不足は客観的に明らかだから、楽天 VS ソフトバンク戦での的中率なら、俺だって80%……？

## アメリカではやはりフットボール賭博……？

日本でもヤクザが主催する（？）野球賭博や大相撲賭博はウラ社会で堂々と存在しているはず。スポーツ賭博自体はアメリカでも非合法だが、スポーツアドバ

イザーという人種は合法的に存在しているらしい。しかしそれはどうも……？  
そして、アメリカではスポーツ賭博のターゲットは野球以上にアメリカンフットボール。テレビ番組までもってその予想屋をしている姿をみると、アメリカではスポーツ賭博は非法とはとても思えなくなってくるが……。

## 大相撲春場所の疑惑は……？

朝青龍が優勝決定戦で白鵬を破ったうえ、技能賞・敢闘賞・殊勲賞の3賞の受賞者がすべてモンゴル勢というのも異常だったが、私がそれ以上に大相撲春場所で怪しいと思ったのは、カド番大関魁皇のラスト3日間での活躍ぶり。5勝7敗から盛り返して千秋楽で勝ち越したため、大関陥落を免れたが、ひょっとしてこれは……と思っているのは私だけ……？

## 山あれば谷あり……？

「山あれば谷あり」はどの世界でも当然だが、株の世界ではそれを更に強調して「山高ければ谷深し」というのが最大の格言……？ そうすると、株以上にバクチ性が高いスポーツ賭博でもそれは同じ……？

ウォルターからVIP待遇で迎えられたブランドンはたちまち頭角を現していった。その結果、今ではテレビ番組でもメインの予想屋となっていたし、新たな大金持ちの顧客の獲得も……。

その絶頂期には12戦すべてをパーフェクトに的中させたほどだから、ブランドンやウォルターが有頂天になったのは当然……。しかし、そんなブランドンにも、あることをきっかけとしてちょっとした判断ミスが……。

もちろん1度や2度の失敗ぐらい、と強気のブランドンだったが、しだいにそれがドツぼに入っていくとともに、ウォルターとの間の人間関係にも微妙なほころびが……。

## 「勝利保証」はスポーツ賭博とは言えないのでは……？

フットボールの試合もいよいよ最終戦。当初の連戦連勝が嘘だったかのように、今や連敗街道をひた走り、多くの顧客から恨み節を聞かされていたブランドンだ

ったが、ウォルターはスポーツ賭博の予想会社オーナーらしくあくまで強気で、「倍倍ゲーム」をくり広げていった。そんなウォルターが最後にテレビ番組で宣言したのが「勝利保証」、つまり予想がはずれた場合はその損失をすべて会社が保証します、というもの。そんなバカなことができるはずはなく、そこまでやれば明らかな詐欺商法……？

それはともかく、そんな状況の中、ブランドンが勝者を予想したのは、複雑なデータを駆使した手法ではなく、最も原始的なコインの表、裏で決するもの……。そんな予想が見事に的中し、最後の大勝負に勝利することができるのだろうか……。

## 人間関係のほころびとそれぞれの選択は……？

あれほど一心同体だったウォルターとブランドンの間にはほころびが出始めた1つのきっかけは、ブランドンの取り分をめぐるちょっとしたトラブルだったが、それ以上に大きな影響を及ぼしたのは、ウォルターの妻（レネ・ルツ）とブランドンとの間の微妙な雰囲気と距離感。商売がうまく回転している間はこんな矛盾はうまく隠されているのだが、1つ歯車が狂ってくると頭をもたげてくるのがこんな微妙な男女問題……。

老獪なウォルターがブランドンに対して示す女性をめぐるさまざまなテクニクは大に見モノだが、さすがに彼女が賭けの道具のように使われていたことが明らかになれば、夫婦関係に大きな危機が生まれてくるのは当然。そして、最後の勝負の行方によっては、ウォルターはすべての金を失い破産してしまう危険も……。さてそんな状況下、ウォルターとその妻の選択は……？ そしてブランドンの選択は……？

2006(平成18)年4月3日記